

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日	平成	年	月	日
所属学部・研究科	工学部/研究科		3年次 (留学開始時点)		
留学先大学	北京航空航天大学 (国名: 中華人民共和国)				
所属学部・学科等名	電子情報工程				
在籍身分	交換生, 進修生				
留学期間	平成28年 9月 1日 ~ 平成29年 1月 13日				
<b>1. 渡航について</b>					
ビザについて	ビザの種類: X2				
	ビザ申請先: 中華人民共和国駐福岡総領事館				
	取得方法, 提出書類: 事前に電話で必要書類について問い合わせ、大使館のサイトから印刷した資料をかき込み、その資料と派遣先の大学から送られた受け入れ許可証招待状、そしてパスポートを提出した。さらに留学を申請したあとにパスポートを更新したため、その古いパスポートのコピーも提出した。				
	手続きに要した日数: 1週間				
その他必要な事前手続き					
出国年月日	平成28年 9月 1日				
経路	日本→(飛行機)→上海→(高速鉄道)→北京				
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・ <span style="background-color: yellow;">大学関係者</span> ・その他) <input type="checkbox"/> 無				
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	到着して数日後にオリエンテーションが行われた。オリエンテーションは英語で行われ、おもに履修や規則に関する内容であった。				
帰国年月日	平成29年 2月 5日				
経路	上海→(飛行機)→北京				
<b>2. 留学経費について</b>					
所要経費	総額	283320	円		
	内訳	渡航費	72170	円	
		保険料	45590	円	
		教科書代(学費)	8723	円	
		宿舍費	83000	円	
		食費	46000	円	
		その他 (水道、光熱費)	3650	円	
( 娯楽費)	21900	円			
( 交通費)	2283	円			
<b>3. 授業について</b>					
2016年 秋学期	2016年 9月 1日 ~ 2017年1月 13日				

年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	当大学では留学生向けに英語の講義を開講しているが、私個人の希望により現地の3年生の学生と共に中国語で授業に参加した。主に電子通信技術について学んだ。
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	中国国内一流の理工系大学だけあって授業中に出される宿題が難しく量も多い。また, 科目によって講義の分量がまちまちである。基本的に週2日の科目が多い。
<b>4. 生活等について</b>	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ( )
住居の広さ	約 m <sup>2</sup> 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 1人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他 (部屋の隅に北京市が提供するヒーターが設置されている)
住居費	1ヶ月当たり 約 850 (現地通貨) 約 14583 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ( )
留学先での住居全般に関するアドバイス	部屋に入ったらず自分の身の回りの環境づくりにつとめること。時に整備されてない部屋に配属されることもあるので欠陥を見つけ次第すぐに事務員に申し出ること。
(2) 医療について	
1日以上入院を要する病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ( )
掛け金は	年間 45590 円(4ヶ月間) 補償額 死亡 1000000 円, 入院1日 円 その他 ( )
留学前後での予防接種の必要の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	福岡県北九州市の健和会大手町病院にてA型肝炎, 腸チフス, 破傷風をそれぞれ1回ずつ接種した。
日常的な健康について不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	現地で風邪をひいたり負傷した事がないため医療機関を訪れた事はなく, 把握してない。

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	水道水は飲まないこと。飲料水や食料品はちゃんとしたスーパーで買うこと。心配ならば浄水器を買うことをおすすめする。また北京はPM2.5による大気汚染が深刻なのでマスクをあらかじめ大量に買っておくことよい。出国前に一度は外務省の渡航情報を読んでおくように。	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
人のいない地下鉄の通路にて怪しい客引きに小声で話しかけられた。最初は何を言ってるのかわからず耳を傾けたが危なそうな奴だと知って断ったところ、その人が突然後を追って来た。そこですぐ人の多いホームに戻り、行方をくらませた。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
公衆トイレにトイレットペーパーが置いてない場合がほとんどなのでポケットティッシュは常時切らさないように。中国国内の公衆トイレのほぼすべてが和式であり、かつ衛生面が日本と比べて劣るので極力宿舎内で用を足すこと。下水道が日本ほどよくなく、一度に大量の紙を流すとつまるおそれが大いにあるため紙の分量にも注意すること。また公衆トイレに置いてある大きな入れ物は使った紙をトイレに流さずに捨てるためのものである。		
<b>5. 帰国後の進路について</b>		
卒業予定年月	平成 31年 3月	(当初の卒業予定年月 平成 30年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input checked="" type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に )	
単位互換手続の予定	<input type="checkbox"/> 有 留学先で取得単位数 ( ) 単位 <input checked="" type="checkbox"/> 無 理由 (派遣先大学での専門が広大での専門と異なるため )	
現在の状況および今後の予定・進路等	3年後期の分の単位が確保できていないため研究室への配属を見送り、余った半年間(前期)で生活費を確保しつつ自分のしたい勉強に励む予定である。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	毎学期の始まる前に何単位とらなければいけないか計算し、授業の分量も考えながら計画的に履修した。そしてやみくもに履修するのではなく、単位不要の制度も活用して取るべき単位に的を絞って確実に合格するように心がけた。	
<b>6. 留学準備, 留学中に役立つ書籍, ウェブサイト等</b>		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
Weblio	<a href="http://cjjc.weblio.jp">http://cjjc.weblio.jp</a>	専門用語もある程度はカバーしている
百度	<a href="http://www.baidu.com/">www.baidu.com/</a>	中国の検索エンジン Google にはアクセスできないので
<b>7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)</b>		
<p>中国国内各地には様々な方言があり、発音が授業で習う標準語とは大きくかけ離れていますので、時に地元の人々が何言ってるのかわからないこともありました。生活して行くうちに慣れてくると思います。</p> <p>中国の店員及び事務員の接客態度は日本ほど良くはありませんが、習慣の違いによるものだと思います。相手に敬意を払いながらお願いをするとちゃんと対応してくれます。あと物を頼む時はまずはっきり聞こえる声で元気に”你好”と挨拶しましょう。</p>		
<b>8. 留学先の大学情報 (有名な分野, 大学の規模)</b>		
北京航空航天大学は中国国内一流の理工系大学であり、国家から重要な大学と位置づけられている。キャンパス内には非常に大きな講義棟のほかたくさんの研究施設があり、優れた実験設備を持つ。理工系の学部がメインだが他に経済学部や文学部もある。この大学は名前の通り航空、宇宙システムの分野が有名で、国家の航空技術を支えている。		

## (授業履修について)

所属学部・研究科	工学部/研究科	3年次 (留学開始時点)
留学先大学	北京航空航天大学 (国名:	中華人民共和国)
所属学部・学科等名	电子信息工程	
在籍身分	交換生, 专业进修生	
留学期間	平成 2016 年 9 月 1 日 ~ 平成 2017 年 1 月 13 日	
<b>1. 履修登録について</b>		
いつ頃履修登録をしましたか。(例: 出願時 (月頃)、出発直前 (月頃)、派遣先大学到着後 (月頃))		
2016年3月頃に出願する際に希望の科目を提出し、派遣先大学に到着した9月頃に正式に履修登録を行いました。		
希望の科目をどの程度履修できましたか。(例: すべて履修できた・いくつか変更させられた・ほとんど履修できなかった)		
出願当時に希望した科目のうちいくつかは変更しました。		
履修できなかった理由、変更が必要になった理由を述べてください。(例: 3年生以上しか履修できない科目だった)		
中国語で授業に望むことを希望しましたが、出願する際に派遣先の大学の留学生向けサイトにアクセスできないことがあり、代わりに英語で授業するコースのカリキュラム表を参考にして科目を選択しました。また派遣先に到着してから1,2年生と3,4年生で授業を行うキャンパスが違うことを知り、移動距離,時間の面を考慮していくつかの科目の履修を断念しました。		
交換留学生に履修制限がある科目はありましたか。どのような制限ですか。履修に際して必要書類はありましたか。		
あまり詳しくはわかりません。 必要書類に関してはオリエンテーション時に配られた履修登録用紙以外はありませんでした。		
<b>2. 履修科目について</b>		
履修科目数	合計 4科目	
<b>履修科目 1</b>		
科目名	微波技術(Microwave Technorogy)	
時間数	1週間に 105分の授業が合計 22回	
科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。		
高周波回路及び電磁波の伝送技術を扱います。伝送線路理論やTEM波だけでなくTE,TM波やマイクロストリップ回路、4端子回路網をなりました。板書中心に講義が進められます。主に教科書から不定期に課されるレポートや授業中の演習の内容がテストに出題されました。また講義の他に実験の時間が設けられ、実験のレポートも成績に加算されます。		

<b>履修科目 2</b>	
科目名	電子回路Ⅱ(Analog Electronic Circuits (2))
時間数	1週間に 105分の授業が合計 24回
科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。	
主にテレビやラジオ、電話等の通信技術における送信機、受信機の回路技術について学びます。毎日宿題が課され、授業後に復習用に資料が配布されます。中にはPSpiceやMATLABを使った宿題も含まれています。その他に希望制でその分野に関する研究や考察のクラス発表も行われました。	
<b>履修科目 3</b>	
科目名	電子測量(Electronic Instrumentation and Measurements)
時間数	1週間に 105分の授業が合計 16回
科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。	
オシロスコープや周波数測定器、電圧計等の測定器具の原理及び測定方法について学びます。PPTで講義が行われるのですがその資料を先生から配布される事はありませんでした。全部で8章あり、章が終わるごとに宿題が課されました。これらの測定器具を直接扱った事がないため、授業の内容を理解するのに苦労しました。	
<b>履修科目 4</b>	
科目名	随机过程理论(Stochastic Process)
時間数	1週間に 105分の授業が合計 18回
科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。	
確率モデルを学びます。定常過程やポアソン過程、マルコフ過程の他に確率過程の信号が線形システムを通ったときの特性についても学びました。毎日課される宿題の分量が多く難易度の高い問題が多かったです。テストは宿題ほど難しくありませんが先生が講義中に強調したところが満遍なく出題されました。	
<b>履修科目 5</b>	
科目名	
時間数	1週間に 分の授業が合計 回
科目内容、予習・復習・試験・レポート等具体的な内容について記述してください。	

# 学習の概要に関するレポート

今回中国への留学を決めたのは中国語の語学運用能力を高め、様々な史跡をめぐって中国の文化に対する素養を深めるためであった。留学先の北京航空航天大学には留学生向けに英語の講義が開講されているが、上記の理由と HSK5 級で 180 点以上を取得できたことから現地の学生とともに中国語で授業に参加することを希望した。

留学先での学部は电子信息工程(電子情報系)を選択した。この学部では主に通信技術を扱っている。中国国内一流の理工系の大学だけあって授業のハードルはとても高かった。授業日数は科目ごとにまちまちだが、どれも広大な授業より分量が多かった。そして毎時間たくさんの宿題が課され、授業に参加して暫くは宿題に追われる日々を送っていた。それでも今回履修したのはたった 4 科目であり、現地の学生がこれよりたくさん履修しているので普段からこなしている勉強量は計り知れないと考えられる。授業に出席した当初はその分野の専門用語を把握していなかったので先生の言うことや教科書に書いてあることがわからなかった。インターネットでの辞書サービスを活用して一つ一つ調べながら試行錯誤して行くうちに授業の内容が聞き取れるようになった。講義のない教室は自習用に解放されるがこの学生は積極的に教室に来て勉強する。人のいない教室を探すのが難しいほどである。図書館へ行くと毎日席が埋まっていて座れるスペースがない。みんな教科書を山のように積んで熱心に勉強している。さらに階段の上立ってまで英語の音読の練習をしている人もいる。そういった学生たちが周りにいる中で授業に出席することで自分自身に更なる勉強を促す良い動悸づけになった。

中国国内の教科書の値段は基本的に 20~30 元、日本円で約 500 円ほどである。内容がしっかりした物になると 40 元~60 元にもなるが、それでも日本円に換算するとほぼ 1000 円以内であり、教科書代の安さが伺える。また店頭価格が教科書に記載されている値段の 2 割引で古本になると 5 割引にもなる。しかし中には紙が極端に薄く、ほんの少しの衝撃でページがすぐ破れたりするものもある。ここで挙げている教科書はすべて中国語で書かれているのだが、中には McGrawHill Education や Horizon などから出版されている洋書を中国語に翻訳したものもある。またこの図書館は 6 階建ての巨大な建物で中に想像を絶するほどの分量の本が並べられており、今まで聞いたことのない分野の本がたくさんあって驚いた。

予定が空いたときは積極的に北京市内の史跡、博物館を見て回った。巡った場所は圓明園、北海公園、八达岭长城(万里の長城)、恭王府、天坛、颐和园、故宫博物院(紫禁城)、香山公園、雍和宮、南锣鼓巷、天安门广场である。北京市は中国の首都であり技術の進んだ大きな街だが一旦門をくぐると周りの景色が大きく変わり、あたかも古代の中国の世界に引きずり込まれたかのような感覚を味わった。内部の多くの建物は保全の関係で何度か修復されているものの原型はとどめており、写真や教科書で見るより遥かに、そして確かに中国の文化というものを感じ取ることが出来た。

また学校の講義や観光などによる勉強だけでなく、コミュニケーションの面でも勉強になった。留学生寮に一度入れば周りの人はみんなメキシコやアフリカ、ヨーロッパなど様々な国の留学生だらけである。彼らは中国語を学びに来ているので全員が英語を流暢に話せるわけではなく、時々発音が聞き取りづらく何度も尋ね直したりすることもあった。このような、逃げ道がなく言語の壁が出来た状態でどうやってコミュニケーションをとるかの訓練にもなった。そして国と国の生活習慣の違いについても触れることが出来た。

最後に、HUSA プログラム全体を通して貴重な経験をした。はじめて HUSA プログラムに申請したときからこの広大な留学プログラムについて、書類、英文の履歴書の書き方、よその大学とのコンタクトの取り方やビザの申請の仕方、過密なスケジュールの回し方などを学んだ。これらはただ漠然と 4 年間過ごしただけでは到底得られないものであり、このプログラムの参加を決心してからの約 1 年半とても有意義に過ごすことが出来た。

## 生活の概要に関するレポート

まず学生寮について述べます。今回留学した北京航空航天大学の学生寮は2つあり、一つはキャンパス内に、もう一つはキャンパス外に隣接する土地にあります。交換留学生はキャンパス郊外の宿舎に居住することになっていると聞いており、私もこの郊外の宿舎に居住することになりました。中国の学生寮は4人または6人でひとつの部屋をシェアしますが、この留学生寮は4人で一つの部屋番号となり、中に寝室が2つ設けられ2人ずつベッドが割り当てられます。玄関は4人共有となっており、洗面台やトイレ、お風呂は2人ずつで共有します。中には番号も部屋も2人だけで共有する部屋もあります。その他主な設備としては冷蔵庫、電子レンジ、エアコン、暖房器具、机と椅子、無線LANがあります。暖房器具は北京市が11月から水道管を通して熱水を提供し、部屋を暖めるしくみとなっており、12月でも9月並の室温を維持出来ます。枕と毛布は支給されますがこの宿舎内での使い回しになっているので各自シーツを持参することをおすすめします。私が部屋に入ったときには扉の鍵が閉まらなかったり電灯がつかなかったりシャワーやトイレが壊れてたり椅子がなかったりと、重大な欠陥が多々ありました。すぐに事務員に問い合わせようとしたのですがその時点で事務員は既に退勤し、土日はオフィスが空いておらずフロアの受付に尋ねてもちゃんと仕事してくれず、居住空間として機能するまで結構な時間がかかりました。留学生寮内は基本英語が飛び交いますが、中には英語を流暢に話せない学生もいます。隣の部屋にアフリカの人が住んでいて真夜中に音楽を大音量で鳴らされる騒音被害に遭ったりしました。私のように規則正しい生活をする人もいればルーズで開放的な生活をする人もいるので、チェックインをする際に必ずルームメイトや隣の人がどこの国の人なのか、どんな言語なら話せるのかを事務員から聞き出し、自分自身と一番良くマッチングする部屋を探しましょう。あらかじめ各国の生活習慣の違いを調べておくとも部屋探しがスムーズになります。

次に日常生活についてですが、道に迷ったときなど基本的に人にものをたずねるときはまずははっきりと挨拶をしましょう。現地の人々は基本的に他人を見たりしないのでおどおどしてもこちらのアクションに気づいてくれません。店やオフィスの事務員の態度も日本ほどよくはありませんが、少し物腰を柔らかくしつつもはっきりと自分の主張を言えばかならずそれに答えてくれます。ただし中国はものの管理がずさんなところが散見されるので、なにか必要な手続きが出た際は担当者が忘れる前に済ませましょう。食事に関しては基本的に大学の食堂で済ましましたがキャンパスの郊外にはさまざまなファストフード店が並んでいます。いずれも食費は格段に安く1日30元=約500円で事は足りました。大学の食堂は衛生管理がちゃんとできてうえ様々な地方の料理が提供されるので食事に困る事はありませんでした。店内の支払いには現金のほかWechat(微信)という中国国内のSNSや支付宝といった支払いサービスを使う事が出来ます。中国国内に幅広く普及され、多くのレジで使用する事が出来ます。またキャンパス内のショップでは学生カードにチャージして広大のMyPieと同じ感覚で支払う事が出来ます。ただし食堂ではこの学生カードでしか支払う事ができないしくみになっています。洗濯は寮の地下にあるランドリー店を利用しました。店員に申し付ければズボンやコートをクリーニングに出す事も出来ます。1回7円で、乾燥もふくめると17元になります。

次に衛生面についてですが、水道水は歯磨きや洗顔に使う事が遭っても絶対に飲んではいけません。夜中になると道路に屋台が立ち並びますが衛生管理が出来てないので手を出さないようにしましょう。そしてトイレについてですが、下水道の設備がよくできていないのでむやみに紙を流すと詰まる危険があります。よくトイレの側に大きなかごがありますがあれは使用した紙を捨てるためのものです。キャンパス内の公衆トイレはほぼすべて和式です。洋式の便座もありますが、どれも清掃員がちゃんと掃除してくれないので衛生的に疑問がのこります。特に注意しないといけないのが、一部のちゃんとした施設を除いてトイレトペーパーが設置されていないことです。キャンパス内のトイレにも設置されていませんでした。紙は自分で用意しなければなりません。

キャンパスの外を歩くと周りは北京の人だらけです。標準的な中国語の発音は北京の方言をもとに作られているので中国語で会話ができるのであれば言葉の面で困る事はありません。ただし現地の方々の、とくに高齢者の発音のクセが強く、何を言ってるのか聞き取れない場面がよくありました。「標準語で話してください」と中国語ではっきりお願いするとちゃんと標準語で話してくれますが、中には標準語を話せない方もいるので注意しなければなりません。交通機関のマナーも悪く、赤信号なのに渡る人もいるし人がいるのに猛スピードで突っ切ろうとする車もいます。しっかりと周りの状況を確認して自分の身は自分で守りましょう。貴重品は

必ず肌身離さず持ち歩く事。それもただポケットに入れただけで慢心してはいけません。駅やターミナルではそういった警戒心の薄い人を狙ったスリが相次いでいるのでそのあたりにも神経を尖らせないといけません。私は小さくて頑丈なバッグを買って財布や携帯、パスポート等の重要なものをまとめて保管し、常に前に背負って持ち歩いていたので人ごみの中でもスリに遭う事はありませんでした。観光地の内部や周辺には怪しい客引きがたくさんいます。もちろんほぼすべて詐欺です。私はそんな人の誘いを一切無視し、歩くペースを早めて振り切っていました。しかし駅の構内で悪質な客引きに絡まれることが一度だけありました。私とその誘いを振り切ると後を追ってきたのです。私はすぐに進行方向を反対側へ、人の多い方に変えて振り切る事に成功しました。そういった連中の誘いには一切反応しないのがベストですが、状況を見て危険だと判断したらすぐに警察に通報しましょう。また留学生の集まる場を除いてはむやみに自分が日本人である事をアピールすべきではありません。中国人の中には少なからず反日感情を抱いた人もいますので極力自分の身を明かさないようにしましょう。

観光地を巡る際はその期間に注意しなければなりません。中国では毎年4月1日～10月31日までを「旺季」、11月1日～3月31日を「淡季」と呼びます。「旺季」のほうが「淡季」より人が多く、チケットも高額になります。私が巡った名所の一つ「故宫博物院」は一日に入場できる人数に制限があり、あらかじめネットで予約しておかないとチケットが確保できないといった事態に陥ります。その他に何時まで開いていてどの門から入るのかもあらかじめ調べておきましょう。

次に北京の主要の史跡である故宫博物院について説明します。故宫博物院は北京に来た観光客が必ずと言っていいほど訪れる場所であり、日々たくさんのツアー客等であふれかえっています。土地が広大なうえ見るべき要所が多いので丸一日つかっても全てを回りきることはできません。ゆえに事前に観光するルートを決めておくことが重要です。また清の時代、重要な祭典が行われていた「太和殿」や皇帝の政治の拠点である「乾清宮」には多くの人だかりができて内部をじっくり観賞する事が出来ません。しかしチケットの販売が終了してから完全に閉園するまで約30分のタイムラグがあり、そのタイミングで入り口付近に戻ると人がいなくなるので「太和殿」など人が多かった部分の内部をじっくり観賞する事が出来ます。

中国はインターネットの規制が厳しく、日本で当たり前のように使っていたサービスにアクセス出来ません。私は渡航する前にあらかじめVPNを登録しておいたので渡航中でも普段と同じようにサービスにアクセスする事ができました。またVPNのサイトそのものがブロックされる危険もあるため使えるメールにVPNのミラーサイトのURLを配信するようにしました。もちろん当局に目をつけられてVPNそのものが規制されるリスクもあるため通信手段を複数確保する事をおすすめします。2016年において私がVPNなしで利用したサービスはYahoo, Weblio, Hotmailです。また広大もみじや広大メールにもVPNなしでアクセスできたので広大からの情報の入手に関して心配する事はありません。

最後に、留学を申請するタイミングで「バディプログラム」への参加を聞かれる事がありました。これは留学生一人に対して渡航先の大学の学生が一人割り振られ、普段の生活などのサポートするプログラムですが、支障がなければ参加する事を強くおすすめします。とくにはじめてキャンパスに来たときどこに行ってもどんな手続きを行うのか、誰に聞けば良いかわからず混乱するはずですが、はじめて北京に到着したときは街の交通環境、大学の構造、到着してまず何をしないといけないのかが全くわかりませんでした。しかしバディがいたおかげで駅から大学への移動、入居手続きなどをスムーズに進める事が出来ました。また現地の人にしか知らない土地勘や生活のコツなどを学ぶことが出来、留学生生活を有利に進める事が出来ました。そして申請段階でお世話になるであろう渡航先の大学の日本語のコーディネーターとは大学に着いた後でも連絡をとるべきです。初対面の先生と違い自分自身のことについてある程度コンテクストをもっていることで問題に直面した際にスムーズにアドバイスを受ける事が出来ます。北京航空航天大学で言えば国際交流グループの先生がそれに当たります。留学中はその先生に大変お世話になりました。この場を借りてお礼を申し上げます。



# 平成28年度HUSAプログラム活動写真

寮の内部(チェックインしたばかりの時)



キャンパス内、周辺の様子

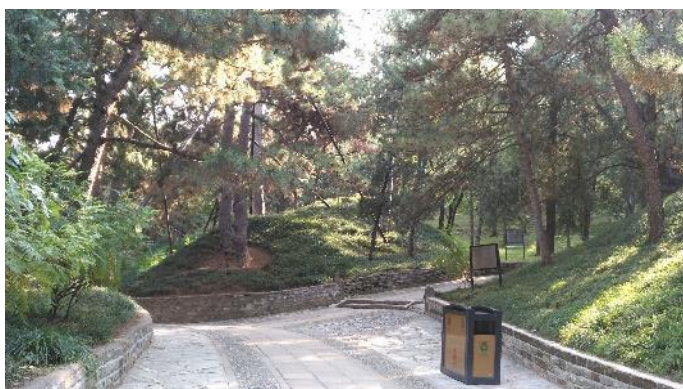








颐和园







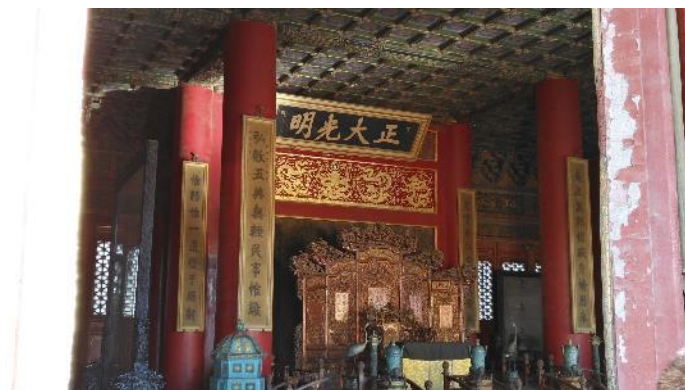
天坛公园



天安門



故宫博物院









万里の長城

